

武蔵エンジニアリング株式会社 様におけるCAD試験活用事例

◎企業概要

武蔵エンジニアリング株式会社は、ディスペンサー※市場において圧倒的な国内No.1を誇る、ディスペンサーシステムの開発・製造・販売を中心に行うディスペンサー総合メーカーです。

(※ディスペンサーとは、製造業界においては、液体定量吐出装置のことであり、液体を精度良く定量供給するコントローラ及びその周辺機器の総称である。)

名称：武蔵エンジニアリング株式会社
 設立年月日：昭和53年9月
 資本金：80,000,000円
 従業員数：530名



◎CAD試験の導入経緯を伺いました

平成16年度から新入社員教育の一環として、CADトレース技能審査 機械部門を導入することとしました。導入の際、他の評価試験と比較し、社内で普段業務に使用しているCADソフトを使用して受験が出来ること等が決め手となりました。

武蔵エンジニアリング様からは、これまでに初級から上級までの受験者を輩出いただいています。

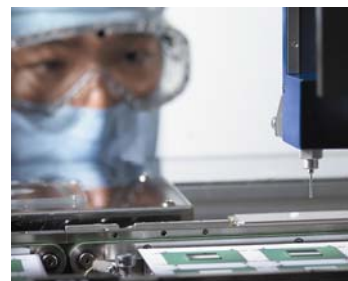
◎CAD試験のご担当者、受験者の方にお話を伺いました

・どういった形でCAD試験を取り入れられていますか

新入社員に対し、自己啓発の能力評価の一つとしてCAD試験を活用しており、受験希望者には、新入社員教育の期間中に受験対策の教育時間を設け指導しています。

受験対策の教育カリキュラム内容については、週1回、約1時間、実技・学科を交互に講習しています。実技については、過去に出題された図面を何度も描画させ、学科については、試験問題をベースにしたオリジナルの教材で学習させています。

学習のポイントとして、学科は出題される規格等を覚えるように指導しています。また、実技では、実際の試験と同じ時間で反復練習させることにより、徐々に「CAD操作スキルが向上」し、おのずと「作図スピードも向上」していきます。その結果、試験時間内に余裕ができ図面を読み解く時間が増えるといった「描画手順の効率化」が可能になり、描画に手間取らない「対応力の強化」へとつながっています。



また、こういったスキルの向上は実務の中で生きてきますし、出題している課題の内容がJIS(日本工業規格)に沿ったものであるため、自然と規格に沿った図面の描き方が身につきます。

この試験はCAD操作のスキルアップとして、また、正しい図面の描き方を把握する上で、とても良い内容だと思います。

・試験を導入したことによる成果はありますか

受験対策講習の中で、図面を描くスキルが向上していきますので、作図スピードが向上し、業務が効率的に行えるようになりました。

また、3次元CADを用いて部品の解析や検査を行います。が、3次元CADは2次元の図面を理解し、応用して使用する。ので、基本となる2次元の図面に必要なスキルを向上させる事が出来ます。この試験は、当社にとって大変有益なものになっています。

・試験を受験することによって得られたものはありますか

初めのうちは試験時間内に描き上げることが出来ず、かなり苦労しましたが、繰り返し図面を描くことで、作図のポイントや効率的なコマンドの使い方が徐々に分かってきて、図面を描く時間が短縮出来るようになりました。結果が出てくると、より早く、精確に描くにはどうしたら良いか考えるようになり、適切なコマンドの使い方が覚えられ、状況に応じた描き方もすぐ頭に浮かぶようになりました。

実際の業務で図面を描こうとしたときに、図面を描くのに掛かる時間が大幅に短縮でき、以前と比べて仕事の時間に余裕が出来ました。

図面は「描ければいい」というものではなく、特殊スキルが必要です。CAD試験の受験をきっかけに学びを深めなければ、これだけのスキルは身につかなかったと思います。

・最後に今後の取り組みについて教えてください

図面をCADで描く事が業務上必要であるため、それに必要なスキルを向上させ、業務の効率化を図ることは必須となっています。

そのような中で、この試験を活用し、各自に目標設定させることにより、実務に直結するCAD操作スキルを向上させ、結果として業務の効率化につながっています。

また、中級や上級を受験させることによって、設計に必要な「部品の形状をイメージし、組み上げ過程を把握する能力」を身に付けることも目的としており、より実務的な業務が出来る人材を育てることを目標に、今後も継続して試験を実施して参ります。

(掲載内容は平成24年11月取材時点の内容です。)